

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600018		
法人名	特定非営利活動法人にしいや		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡110番地1		
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670600018&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670600018&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、“家庭的生活環境”を理念に掲げケアに努めている。在宅での習慣や食事、日常生活を思い出してもらえよう山菜取りや畑での収穫、調理、味付けなどをしていただいている。日ごろから、自分達で生活をしていると感じてもらえるように勤めている。利用者が四季ごとに行っていたことや風習、習慣等を思い出してもらい、職員とともに実践している。残存機能を維持できるように、理学療法士から口腔ケアの指導や理学療法を受け、なるべく身体機能の低下を予防できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、四季の移り変わりを直接肌で感じることができる。職員は、利用者の家庭的な生活環境の継続に努めている。収穫した山菜や野菜をメニューの1品に加えたり、食事の準備やテーブル拭き、後片付け等、できそうなことやしたいことを利用者職員が一緒に行き、安心して過ごせるよう取り組んでいる。「祖谷地方」の読み聞かせでは、職員が利用者から読み方を教わったり思いがけない公家言葉を教わる場面がある。事業所は、地域住民の憩いの場として介護や看護学生の研修を受け入れている。また、口腔指導や理学療法士の指導等、高齢期の方の暮らしに役立つ情報の発信源となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として、「家族的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。	利用者が、家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活が送れるように、全職員が理念を共有して日々のサービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で畑作りを行っており、近隣の方から指導を受けたり、手伝いに来ていただいている。利用者や来訪者が一緒に休憩をとり、和やかに会話を楽しんでいる。ゲートボール場が近隣にあり、地域の方々の来訪がたびたびある。	地域の方から指導やアドバイスをもらい、事業所の菜園で野菜を育てている。事業所の近くにゲートボール場があり、プレイした帰りの人や周辺の方の休憩所となっていて、利用者と一緒に会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護タクシーも運営しており、通院や生活支援の移動手段として活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。また、市役所から職員の参加もある。	運営推進会議には、利用者代表や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、市職員等が参加している。事業所の現状や要望、評価など双方向的な話し合いを行い、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所と事業所は、日ごろから連携を密に図っている。市役所の職員の多くが地域住民でもあることから、ことあるごとに意見交換を行うなど、密接な関係のもとで事業連携に努めている。	事業所と市町村担当者は、日ごろから連絡を密に取っている。利用者の暮らしぶりや事業所の考え方、取り組みを伝えて意見交換をしながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。	全職員が、マニュアルや研修で理解を深めている。つねに見守りを徹底し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間の職員体制を2名にしている。常に複数の勤務体制をとることにより、虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について知っているが、現状では利用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分に内容を説明している。本人や家族を尊重して契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合には管理者が対応している。また、苦情箱を設置している。文書に対応方法や内容について記載しており、出された意見等は運営推進会議に諮っている。	家族会や運営推進会議等での意見、要望のほか、家族や親戚の来訪時に話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見、要望等はリーダー会議や運営推進会議等で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議やモニタリング会議で意見を聞いている。	毎月、リーダー会議やモニタリング会議を開催し、そのつど職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週休2日の勤務体制を基本とし、なるべく職員の希望に応じられるよう努めている。夜間の勤務体制を2名とし、夜勤時の不安を少しでも軽減できるように配慮している。また、勤勉手当の支給や常にコミュニケーションを図ることで、楽しい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務内容に早く慣れることができるように、2週間から3週間は日勤を中心とした勤務体制をとっている。その間は常に他の職員を配置している。また、認知症に関する研修を受けられるように勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって、同業者との交流は行っていない。地域診療所の声かけで、行政や各介護職員との交流会、県社協の研修や相互事業に参加し職員交流等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さくら」棟	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指している。日ごろ利用者と生活をする中で、本人にできることはなるべく自分でしてもらるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を招待して花見会等を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日ごろの生活の様子を送付して近況を把握できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談のうえで、本人の要望にできるだけそえるよう努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策している。	美容院や理容院に行ったり、また来訪してもらったりしながら関係が途切れないように支援している。敬老会等を野外で開催し、周辺の人たちにも声かけして参加してもらい、地域とのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろから、利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退居後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。本人の希望をなるべく生活の中で反映できるように努め、困難な場合には家族から話をいただき納得を得ている。	利用者のこれまでの生活状況を家族から聞き、一人ひとりの思いの把握に努めている。馴染みの暮らし方やサービス利用の経過等を把握し、ケアの質の向上に努めている。困難な場合には本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過を把握し、日ごろの生活や計画に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	専用のシートを活用し、日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用している。家族と相談した内容を計画に反映している。	センター方式を活用して、ケアに携わる全職員で話し合い、本人や家族の希望にそった介護計画を作成している。状況変化があった時は、そのつど見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用の用紙の活用や申し送りを活用し、毎日の介護に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者は、各職員から出された意見等もふまえて考慮し、状況に応じた柔軟な対応ができるように指示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。	利用者や家族等と話し合い、希望する医療機関を受診できるよう支援している。歯科医師や口腔指導員、看護師、理学療法士の定期的な訪問指導を得て、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は、病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族や主治医と連絡・相談を行っている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。	契約時、事業所ができることを十分に説明し、納得していただいたうえで入居してもらっている。状況変化に応じて、利用者や家族の意向を踏まえて、医師や関係者とともにチームで話し合っ方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施しているが、地域状況もあり、近隣住民の協力があまり得られていない。	定期的に避難訓練を実施している。避難場所や緊急連絡体制は整備している。山間部にあるため、運営推進会議等で地域の方に協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さくら」棟		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、名字で呼びかけを行っている。個人情報に関する書類等は施錠付きのロッカーに保管している。		日ごろから、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した支援を行っている。個人情報に関する書類等は適切に管理・保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のできることとできないことを判断し、本人の希望を踏まえ、やる気を損なわないような支援に努めている。短時間で完了できるような役割を担っていただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを覚えてもらえるような声かけを行い、昼夜逆転などの防止や規則的な食事を行えるように努めている。本人の希望にそえるように時間に余裕をもたせた支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する理髪店への送迎を支援している。希望する理髪店が遠方の場合、本人や家族の了解を得たうえで変更している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは、希望する利用者が自主的に行えるようにしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量の確認を常に行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや義歯の取り外し洗浄・ブラッシングが習慣になるよう支援している。また、市社会福祉協議会から来訪があり、口腔ケアの衛生管理指導や口腔体操等による嚥下予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の活用によって排泄パターンを把握し、漏れがないように支援している。また、紙おむつの使用をなるべく控え、下着を着用していただけるように努めている。	チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけと誘導による排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜摂取を重視したメニューや水分補給に留意している。肉と魚類を交互に取り入れた食事づくりをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は利用者の意見を聞き決めているが、状況により入浴は可能である。	利用者の希望する曜日や時間を話し合いで決めている。状況によって、いつでも入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内のいたるところに休憩場所を作っている。また、玄関前や事業所周辺にも休憩場所を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに服薬に関する書類を綴り、確認しやすくしている。また、医療機関と相談して誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味で作成した物の一部を展示している。また、壁掛けとして事業所内に飾っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住みなれた地域へ出かけて散策したり、季節に応じた外出の支援を行っている。希望に十分そった外出ができておらず、通院日に合わせた外出となっている。	日ごろから事業所の庭を散策したりテラスに座って来訪者と話をしたりしている。通院日に合わせて買い物をしたり、出身地周辺を訪れたりしている。秋から冬にかけて、「もみじ」工房でおじゃみや手まり等の手作り作品を職員と一緒に作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームもみじ「さくら」棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方は担当職員が管理し本人の希望時に渡して、買い物時に支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に掘り炬燵を設置し、野外的の様子を窺えるようにしている。テラスには長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。	ホールや食堂は天井が高く、ゆったりとして明るい。対面式のキッチンから職員が全体的な動きを見守ることができる。畳の間から四季折々の景色も見られ、職員と一緒に「祖谷地方」の読み聞かせを聞いたり、談話をしながら居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋となっている。畳敷きの居間にはコタツを置いている。また、テラスや玄関の長椅子で利用者同士が会話を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用している馴染みの品物を持ち込んで生活している。	利用者が今まで使っていた馴染みの家具等が多く持ち込まれている。居心地よく過ごせるように工夫して家具等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札等を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、わかりやすくしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として、「家族的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所で畑作りを行っており、近隣の方から指導を受けたり、手伝いに来ていただいている。利用者や来訪者が一緒に休憩を取り、和やかに会話を楽しんでいる。ゲートボール場が近隣にあり、地域の方々の来訪がたびたびある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護タクシーも運営しており、通院や生活支援の移動手段として活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。事業報告や苦情に関する状況等の説明を行い意見を聞いている。また、市役所から職員の参加もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所と事業所は、日ごろから連携を密に図っている。市役所の職員の多くが地域住民でもあることから、ことあるごとに意見交換を行うなど、密接な関係のもとで事業連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間の職員体制を2名にしている。常に複数の勤務体制をとることにより、虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について知っているが、現状では利用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分に内容を説明している。本人や家族を尊重して契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合には管理者が対応している。また、苦情箱を設置している。文書に対応方法や内容について記載しており、出された意見等は運営推進会議に諮っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議やモニタリング会議で意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週休2日の勤務体制を基本とし、なるべく職員の希望に応じられるよう努めている。夜間の勤務体制を2名とし、夜勤時の不安を少しでも軽減できるように配慮している。また、勤勉手当の支給や常にコミュニケーションを図ることで、楽しい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務内容に早く慣れることができるように、2週間から3週間は日勤を中心とした勤務体制をとっている。その間は常に他の職員を配置している。また、認知症に関する研修を受けられるように勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行えていない。地域診療所の声かけで、行政や各介護職員との交流会、県社協の研修や相互事業に参加し職員交流等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向も踏まえた計画づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指している。日ごろ利用者と生活をする中で、本人にできることはなるべく自分でしてもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を招待して花見会等を開催している。利用者や家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回、利用者の日ごろの生活の様子を送付して近況を把握できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談のうえ、本人の要望になるべくそうように努めている。また、利用者の馴染みの地域を散策している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろから、利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退居後も家族の相談に応じる等の配慮に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努め、困難な場合には家族から話をさせていただき納得を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過を把握し、日ごろの生活や計画に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	専用のシートを活用し、日常生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専用の用紙や介護記録経過ノートを活用している。家族と相談した内容を計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用の用紙の活用や申し送りを活用し、毎日の介護に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者は、各職員から出された意見等もふまえて考慮し、状況に応じた柔軟な対応ができるように指示している。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画をなるべく促せるようにイベントを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域診療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し訪問看護などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院に至った場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡し要望を聞いている。家族から出された意見や要望は、病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族や主治医と連絡・相談を行っている。また、今後の対応について家族と医師、管理者間で話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制はできているが、応急処置についてはできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は実施しているが、地域状況もあって、近隣住民の協力が十分得られていない。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、名字で呼びかけを行っている。個人情報に関する書類等は施錠付きのロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のできることでできないことを判断し、本人の希望を踏まえたうえで、やる気を損なわないような支援に努めている。短時間で完了できるような役割を担っていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを覚えてもらえるような声かけを行い、昼夜逆転などの防止や規則的な食事を行えるように努めている。本人の希望に添えるように時間に余裕をもたせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する理髪店への送迎を支援している。希望する理髪店が遠方の場合には、本人や家族の了解を得たうえで変更している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは、希望する利用者が自主的に行えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量の確認を常に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや義歯の取り外し洗浄・ブラッシングが習慣になるよう支援している。また、市社会福祉協議会から来訪があり、口腔ケアの衛生管理指導や口腔体操等による嚥下予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の活用によって排泄パターンを把握し、漏れがないように支援している。また紙おむつの使用をなるべく控え、下着を着用していただけるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜摂取を重視したメニューや水分補給に留意している。肉と魚類を交互に取り入れた食事づくりをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間は利用者の意見を聞き決めているが、状況により入浴は可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング内のいたるところに休憩場所を作っている。また、玄関前や事業所周辺にも休憩場所を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに服薬に関する書類を綴り、確認しやすくしている。また、医療機関と相談し誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味で作成した物の一部を展示している。また、壁掛けとして事業所内に飾っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が住みなれた地域へ出かけて散歩したり、季節に応じた外出の支援を行っている。希望に十分そった外出ができておらず、通院日に合わせた外出となっている。		



自己	外部	項目	自己評価 グループホームもみじ「さつき」棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理していただいている方もいるが、困難な方には担当職員が管理し、本人の希望時に渡して買い物時に支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳の間に掘り炬燵を設置し、野外的様子を窺えるようにしている。テラスには長椅子を置き、利用者が野外を見ながらゆったりとくつろぐことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋となっている。畳敷きの居間にはコタツを置いている。また、テラスや玄関の長椅子で利用者同士が会話を楽しむことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用している馴染みの品物を持ち込んで生活している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札等を貼り、よく行く場所にはマークを付けるなどの工夫をし、わかりやすくしている。		